



つなぐれ和泉っ子

～人と社会と未来の自分～

和泉

6月号

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/izu>

“ふるさと”

校長 中澤 道則

♪ 大空はるかに 美しく
そびえる富士と やまなみつづく ♪

本校の校歌の初めの部分です。私がこの4月に本校に着任した時、一番、印象的だったのがこの風景です。遮るものなく、大きく広がる青空。前にいた職場よりも、はるかに大きく見える大山・丹沢の山山とその向こうにそびえる富士。少し歩けば和泉川も流れています。こんな風景を日々、目にすることができると、東京で育った私にとってはこの上のない贅沢です。



さて、唱歌「故郷」にも「山」と「川」が出てきますね。「ふるさと」というとまず思い起こされるのが「山、川、海、空」といった自然の風景でしょう。本校もそんな豊かな自然の「ふるさと」に恵まれています。それではなぜ「ふるさと」というと「自然の風景」なのでしょう。それは、「年月を経ても変わらずそこにあるもの」だからなのではないかと、私は思います。それならば、それは「自然の風景」に限ったものではないのでしょうか。何年たっても変わらぬ人の営みもまた、「ふるさと」と言えるのです。今、きちんと挨拶をすることができる子がたくさんいる、和泉小学校。50年後、100周年の年にも和泉小学校の子ども達がきちんと挨拶をすることができていたならば、それもまた「ふるさと」と言えるのではないのでしょうか。

100周年の記念の年は、今年度の6年生、第50回卒業生は62歳。今の私と同じ年になっているのです。今年度の6年生が目にする「ふるさと」、和泉小学校はどのような姿をしているのでしょうか。今年度の和泉小学校の在校生たちと共に、50年後、100周年の年にも「ふるさと」として思い出すことができるような子ども達の文化を創ることができたら、と思っています。

本校の校歌はこう締めくくられています。

♪ 僕と私の和泉 和泉小学校 われらの われらの ふるさとよ ♪

今からさらに50年先、和泉小学校100周年の年にも和泉小学校が変わらず卒業生の、そして保護者・地域の皆さんの「ふるさと」であり続けるために、教職員一同、努めていきたいと思えます。保護者、地域の皆様、どうぞ今月もよろしくご理解、ご協力のほど、お願いいたします。